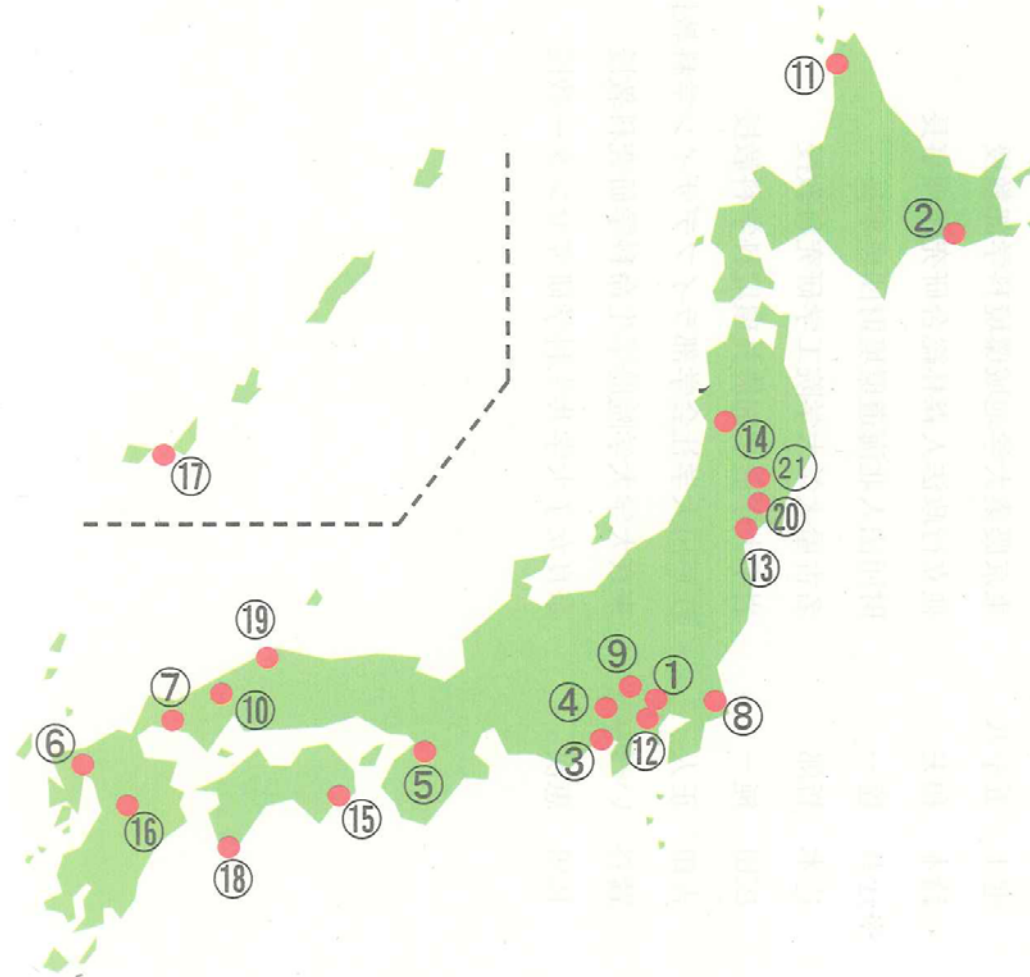


# 全国の自然再生事業の状況(参考資料)

参-1

## 資料:平成21年度自然再生協議会情報連絡会議(東日本)抜粋 自然再生協議会(設置箇所)の全国位置図

H21.9現在



	協議会名	設立日
①	荒川太郎右衛門地区自然再生協議会	H15.7.5
②	釧路湿原自然再生協議会	H15.11.15
③	巴川流域麻機遊水地自然再生協議会	H16.1.29
④	多摩川源流自然再生協議会	H16.3.5
⑤	神於山保全活用推進協議会	H16.5.25
⑥	桧原湿原地区自然再生協議会	H16.7.4
⑦	榎野川河口域・干潟自然再生協議会	H16.8.1
⑧	霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生協議会	H16.10.31
⑨	くぬぎ山地区自然再生協議会	H16.11.6
⑩	八幡湿原自然再生協議会	H16.11.7
⑪	上サロベツ自然再生協議会	H17.1.19
⑫	野川第一・第二調節池地区自然再生協議会	H17.3.28
⑬	蒲生干潟自然再生協議会	H17.6.19
⑭	森吉山麓高原自然再生協議会	H17.7.19
⑮	竹ヶ島海中公園自然再生協議会	H17.9.9
⑯	阿蘇草原再生協議会	H17.12.2
⑰	石西礁湖自然再生協議会	H18.2.27
⑱	竜串自然再生協議会	H18.9.9
⑲	中海自然再生協議会	H19.6.30
⑳	伊豆沼・内沼自然再生協議会	H20.9.7
㉑	久保川イーハートープ自然再生協議会	H21.5.16

**(1) 自然再生の取り組みの全国動向**

- ・「自然再生推進法」平成 15（2003）年 1 月施行～6 年経過 7 年目
- ・全国 21 箇所で「自然再生協議会」設立  
最新は、平成 21 年 5 月に「久保川イーハトープ自然再生協議会」  
1 協議会当たり構成員数は平均 57 名（霞ヶ浦は平成 16 年 10 月設立、構成員 64）
- ・「自然再生全体構想」は、21 協議会中 20 で作成済み。伊豆沼・内沼で作成中。  
（霞ヶ浦は、2005 年 11 月に作成）
- ・「事業実施計画」は、13 協議会（20 計画）が作成済み。  
（霞ヶ浦は、A 区間：2006 年 11 月、B 区間：2007 年 9 月に作成）
- ・「自然再生専門家会議」（委員長は辻井達一（財）北海道環境財団理事長、ほか全 12 名の委員）が法律施行後平成 21 年 9 月までに 12 回開催され、各協議会の作成した自然再生実施計画についてコメント。最新は平成 21 年 7 月 21 日開催。

**(2) 釧路湿原自然再生協議会における取り組み状況**

- ・6 つの小委員会（湿原再生、旧川復元、森林再生、水循環、土砂流入、再生普及）
- ・再生普及小委員会の内部に再生普及行動計画 WG と釧路湿原環境教育 WG
- ・前者は 2005 年度から 5 年間にのべ 185 団体、350 件の参加。今後、農業や観光などの地域の産業との連携が必要。
- ・後者は、環境教育の事例集を作成。今後、教員の支援、養成、資質の向上が必要。

**(3) 各自然再生協議会における取り組み状況**

- ・荒川太郎右衛門地区 ・巴川流域麻機湧水地 ・多摩川源流 ・くぬぎ山地区 ・上サロベツ
- ・野川第一・第二調節池地区 ・蒲生干潟 ・森吉山麓高原 ・伊豆沼・内沼 ・久保川イーハトープ

### 自然再生推進法に基づく自然再生協議会の設置状況(全国)

現在全国各地で21の自然再生協議会が設置され、それぞれの地域において全体構想及び実施計画の作成が進められています。

平成21年 9月現在

	協議会名	位置	概要	構成員数	全体構想作成日	実施計画作成日
1	荒川太郎右衛門地区自然再生協議会	埼玉県	乾燥化が進む旧流路において湿地環境の保全・再生を検討。	70	H16.3.31 H18.5.28変更	—
2	釧路湿原自然再生協議会	北海道	流域からの土砂流入等により乾燥化が進む釧路湿原の再生を検討。	121	H17.3.31	(H18.2.28/達古武) (H18.1.31/南郷茶) (H18.1.31/雷禮・幌呂) (H18.8.1/茅沼地区) (H18.8.1/久香呂川) (H19.9.6/雷別)
3	巴川流域麻機遊水地自然再生協議会	静岡県	洪水防止対策として造成された麻機遊水地において元の麻機沼における植物の回復等自然環境の保全・再生を検討。	57	H19.3.1	H20.12.8
4	多摩川源流自然再生協議会	山梨県	山梨県小菅村全域において森林や河川景観等の再生を検討。	44	H20.3.21	—
5	神於山保全活用推進協議会	大阪府	竹林の侵入が進む神於山においてクヌギ・コナラを中心とする落葉樹林帯やカシ・シイを中心とする常緑樹林帯の再生を検討。	43	H16.10.21	H17.6.1
6	椋原湿原地区自然再生協議会	佐賀県	特定植物の繁殖や植物遺体の堆積といった自然遷移の進行により悪化している湿地環境を良好な状態へと再生することを検討。	36	H17.1.26	H17.3.31
7	榎野川河口域・干潟自然再生協議会	山口県	榎野川河口干潟等の自然環境を再生し維持していくことを検討。	57	H17.3.31	—
8	霞ヶ浦湾奥部・沖宿・戸崎地区自然再生協議会	茨城県	霞ヶ浦湾奥部の湖岸環境の再生を検討。	64	H17.11.27	H18.11.27/A区間 H19.9.14/B区間
9	くぬぎ山地区自然再生協議会	埼玉県	川越市、所沢市、狭山市、三芳町にまたがる武蔵野の平地林「くぬぎ山地区」における歴史的・文化的・環境的価値の継承を検討。	66	H17.3.12	—
10	八幡湿原自然再生協議会	広島県	臥竜山麓八幡湿原地域において湿原環境の再生を検討。	31	H18.3.31	H18.10.30
11	上サロベツ自然再生協議会	北海道	国立公園であるサロベツ湿原と農地が隣接する北海道豊富町において、農業と共存した湿原の再生を検討。	54	H18.2.2	H18.7.13/国土交通省北海道開発局稚内開発建設部他 H21.7.2/環境省
12	野川第一・第二調節池地区自然再生協議会	東京都	土地利用の変化により自然環境が大きく損なわれたかつての多様な河川環境の再生を検討。	49	H18.9.13	H18.10.16
13	蒲生干潟自然再生協議会	宮城県	シギ・チドリ類などの渡り鳥の飛来地であり、また底生動物の宝庫である貴重な干潟環境の保全・再生を検討。	24	H18.9.16	H20.3.29
14	森吉山麓高原自然再生協議会	秋田県	かつて草地として開発された森吉山麓高原を広葉樹林に再生し、周辺の自然環境と共に保全していくことを検討。	21	H18.3.31	H18.10.20 H21.4.27 変更
15	竹ヶ島海中公園自然再生協議会	徳島県	サンゴを中心とした海洋生態系の回復を図ることを検討。	54	H18.3.31	—
16	阿蘇草原再生協議会	熊本県	阿蘇の草原の維持、保全及び再生を図ることを検討。	132	H19.3.7	H21.3.4
17	石西礁湖自然再生協議会	沖縄県	優れたサンゴ礁を保全することに加え、赤土流出への取り組みを進めるなど陸域からの環境負荷を少なくするとともに、サンゴ群集修復事業などを通じて、サンゴ礁生態系の再生を検討。	80	H19.9.1	H20.6.13
18	竜串自然再生協議会	高知県	竜串湾のサンゴ群集等の沿岸生態系を再生するため、海底に堆積した泥土の除去のほか、森林や河川からの土砂流出や生活排水など流域からの環境負荷への対策を検討。	69	H20.3.28	—
19	中海自然再生協議会	島根県 鳥取県	戦後の開発や生活雑排水の流入などにより失われた中海全域の自然環境の再生を検討。	64	H20.11.22	—
20	伊豆沼・内沼自然再生協議会	宮城県	豊かな水生植物群落を復元し、多様な水鳥、在来魚が生息していた湿地環境、湿原景観を再生することを検討。	39	—	—
21	久保川イーハートープ自然再生協議会	岩手県	ため池等での外来種対策、適切な管理による雑木林や水辺の生物多様性の保全再生を図り、恵み豊かな里地里山の自然を次世代に引き継ぐことを検討。	25	H21.5.16	H21.5.16

自然再生事業実施計画の作成状況

	実施計画名	実施主体	協議会名	作成日
1	櫻原湿原地区自然再生事業実施計画	佐賀県くらし環境本部環境課	櫻原湿原地区自然再生協議会	平成17年3月31日
2	神於山地区生活環境保全林自然再生事業実施計画	大阪府泉州農と緑の総合事務所、神於山保全くらぶ	神於山保全活用推進協議会	平成17年6月1日
3	釧路湿原自然再生事業土砂流入対策(沈砂池)実施計画(雪裡・幌呂地域)	国土交通省北海道開発局釧路開発建設部、鶴居村	釧路湿原自然再生協議会	平成18年1月31日
4	釧路湿原自然再生事業土砂流入対策(沈砂池)実施計画(南標茶地区)	国土交通省北海道開発局釧路開発建設部、標茶町、南標茶地区排水路維持管理組合	〃	平成18年1月31日
5	釧路湿原遠古武地域自然再生事業実施計画	環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所	〃	平成18年2月28日
6	釧路湿原自然再生事業茅沼地区旧川復元実施計画	国土交通省北海道開発局釧路開発建設部	〃	平成18年8月1日
7	釧路湿原自然再生事業土砂流入対策実施計画(久喜呂川)	国土交通省北海道開発局釧路開発建設部、北海道釧路土木現業所 他	〃	平成18年8月1日
8	上サロベツ自然再生事業 農業と湿原の共生に向けた自然再生実施計画(緩衝帯・沈砂池)	豊富町、サロベツ農事連絡会議、国土交通省北海道開発局稚内開発建設部	上サロベツ自然再生協議会	平成18年7月13日
9	野川第一・第二調節池地区自然再生事業実施計画	東京都建設局北多摩南部建設事務所	野川第一・第二調節池地区自然再生協議会	平成18年10月16日
10	森吉山麓高原自然再生事業実施計画	秋田県	森吉山麓高原自然再生協議会	平成18年10月20日 平成21年4月27日変更
11	八幡湿原自然再生事業実施計画	広島県	八幡湿原自然再生協議会	平成18年10月30日
12	霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生事業実施計画[A区間]	国土交通省霞ヶ浦河川事務所	霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生協議会	平成18年11月27日
13	雷別地区自然再生事業実施計画	林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター	釧路湿原自然再生協議会	平成19年9月6日
14	霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生事業実施計画[B区間]	国土交通省霞ヶ浦河川事務所	霞ヶ浦田村・沖宿・戸崎地区自然再生協議会	平成19年9月14日
15	蒲生干潟自然再生事業干潟・砂浜の修復実施計画	宮城県	蒲生干潟自然再生協議会	平成20年3月29日

	実施計画名	実施主体	協議会名	作成日
16	石西礁湖自然再生事業 環境省事業実施計画	環境省九州地方環境事務所 那覇自然環境事務所	石西礁湖自然再生協議会	平成20年6月13日
17	巴川流域麻機遊水地自然再生事業実施計画	巴川流域麻機遊水地自然再生協議会、静岡県静岡土木事務所、静岡市	巴川流域麻機遊水地自然再生協議会	平成20年12月8日
18	阿蘇草原自然再生事業野草地保全・再生事業実施計画	環境省九州地方環境事務所	阿蘇草原再生協議会	平成21年3月4日
19	久保川イーハートブ自然再生事業侵略的外来種の排除による溜池環境の保全・再生事業実施計画	久保川イーハートブ自然再生研究所	久保川イーハートブ自然再生協議会	平成21年5月16日
20	上サロベツ自然再生事業実施計画	環境省北海道地方環境事務所	上サロベツ自然再生協議会	平成21年7月2日

平成 21 年度 自然再生協議会 情報連絡会議（東日本） 報告

平井幸弘（駒澤大学）

日時：平成 21 年 9 月 10 日（木）～9 月 11 日（金）  
 会場：北海道釧路湿原および釧路市生涯学習センター

【9 月 10 日（木）】

① 温根内ビジターセンターでの湿原見学

- ・年間約 4 万人が訪れる場所で、湿原で唯一木道（昭和 43 年に廃止された鶴居軌道敷跡）を利用、バリアフリー対応）が整備されている。環境学習に利用多。
- ・ヨシ原主の低層湿原、ハンノキ林、ミズゴケ主の高層湿原。
- ・ハンノキ林の拡大（湿原全体で、1947 年の 21.0ha から 1996 年には 71.3ha）



軌道敷跡を利用した湿原探勝路



ヨシを主とする低層湿原



湿原の乾燥化によって拡大するハンノキ林



ミズゴケを主とする高層湿原

② 久著路川における河床低下対策工事

- ・ 1966～80 年に河道のショートカット・明渠排水事業により、河床の侵食（4～5m）によって土砂が湿原の源流部に流出・堆積するようになった。
- ・ 湿原流入部に土砂調整池の整備、河床低下した河道の安定化（床止工）。
- ・ 2004～06 年に自然再生協議会の土砂流入小委員会で議論のあと、実施計画（21～22 億円）。



久著路川で実施された床止工

③ 南標茶地域における土砂流入対策

- ・ 国営土地改良事業に関連した土砂流出対策：2000 年より実施していたが、「自然再生事業」に位置づけて、実施することに。
- ・ 排水路の合流部に「沈砂地」（2～3 年に一度土砂を除去）、排水路の草刈りと「沈砂柵」の土砂上げ（各農家）、環境教育の場としても活用。



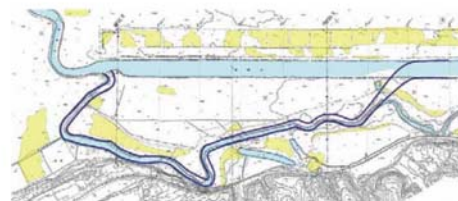
排水路の合流地点に設けられた沈砂地

④ 茅沼地区における旧川復元

- ・ 釧路川河口から 32 km 付近の約 2 km 区間の直線化された河道を、蛇行した旧河道に戻す。
- ・ 1977 年に洪水防止・農地開発のために直線化したが、結果的に農地開発は実施されず。
- ・ 直線化部分の下流端から湿原に氾濫・土砂堆積、乾燥化による湿原の減少、生物多様性・湿原景観の喪失。
- ・ 地域協働の取り組み（ヨシ移植、魚類・水生植物の移動・移植など）。
- ・ 2009 年度：河道を旧川に切り替え、2010 年度：直線河道を埋め戻して工事完了。



直線化された釧路川の河道



蛇行した旧川への復元計画

⑤ 達古武地域における自然林再生

- ・人工のカラマツ林を、広葉樹の森に再生し、土砂流出の防止、環境教育の場としても活用。
- ・2008～09年にササの処理や植栽約5haを実施、8年後の全エリア（約100ha）完了予定。
- ・環境教育プログラムとして、「調査体験会」を年2回程度実施、各10～20名の参加者。



カラマツの人工林



カラマツ林を広葉樹の森に再生計画